

官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～
ハワイ大学医学部での研究（第 4 期）

新潟大学大学院自然科学研究科
生命・食料科学専攻 博士前期 1 年 伊藤洵

<留学目的>

2016 年 9 月から 2017 年 2 月にかけて、ハワイ大学医学部附属発生生物学研究所（UHIBR）にて研究技術習得を目的として半年間研修を行いました。私が留学した目的としては、近年様々な要因で衰退の危機にある畜産業に対し、最先端の遺伝子改変技術を用いた高付加価値の畜産物生産を通して貢献するためです。

<留学先での学習・活動と生活の環境>

実際の活動は研究活動が中心であり、所属先研究室の博士課程の学生に指導を仰ぎつつ、技術習得と並行して自らで研究を進めていく形で行いました。ゆえに、1 日のスケジュールとしては、基本的何をするかは自由に決めることができ、自分の場合は実験の合間に本研究領域の分子生物学の勉強や論文を読むという形で行っており、9 時～18 時まで研究室で作業をする生活でした。しかし、分子生物学は自分の主専攻ではないため、基礎から学ぶ必要があり、休日を返上して常に勉強をこなす毎日でした。（英語で）

<印象に残った留学中のエピソード>

留学中の印象深いエピソードとしては、指導していただいた学生からの一言です。特許に関する学内セミナーを聴講した際、自分は学生向けの話ではないと感じていましたが、終了後その旨の話を現地の大学院生にしたところ、私の意見は一喝されました。アメリカの学生の意見としては、学生だとしても特許あるいは研究資金までも獲得することができるという趣旨のものであり、海外と日本の学生の研究に対する意識の大きな隔たりを強く感じました。私自身、この出来事を経験して以来、学生ではなく、一人の研究者としての考えを持ったり、行動をするようになり、より真摯に、また、自律的に研究活動を行うようになりました。私が本留学で得た大きな学びはこの部分であり、自分では「一人称で考える意識」と呼んでいます。学生意識から離れ、社会的に自立した考え方を可能な限り早期から持つことで、将来的に自らの自己実現を早めることができるのではないかと感じました。また、この差が海外と日本の技術革新の差であるように感じました。

<留学して学んだこと>

上記以外の学びとしては、物事を楽観視する能力の重要性です。ハワイに住む人々は非常にアクティブで、また、物事に対して楽観的な考え方をもち、あれこれ思慮深く考えないようなタイプの人々が多数派でした。しかし、それは裏を返せば、行動に焦点を当てており、目の前の物事に対して余裕を持つことを意味していました。例えば、研究を進めていく際、たとえ芳しくない結果が出たとしても、研究自体に楽しむ余裕を持ち、次のプランを次々と実行していくことを通し、成果を出していく姿が見られました。上手く実例を挙げることは難しいのですが、目の前の物事をあれこれ考えず、行動ベースで考え、かつ、目の前の物事を楽しむ心の余裕を持つ、という自分

にはない新しい価値観に触れることができました。私は本来、慎重に物事を行うようなタイプの人間ですが、彼らの物事に取り組む姿勢の実践を通し、精神的な余裕を持つことの重要性を実感しております。

<語学がどのくらい上達したか>

語学の上達度合いとしては、TOEIC 等の資格試験で測るところの語学試験より、英語を話す度胸や‘英語’によるコミュニケーション能力向上の成果の方が大きいと思います。実際、海外ではたとえ流暢に英語が話せなくても聞き手は一生懸命聞く姿勢を崩すわけではなく、また、ブローケンイングリッシュを話す人の方が大多数であるという事実も目の当たりにし、使える英語を運用する能力の方が重要であると思いました。こういった背景を自分で感じ、認識するだけでも大きな学びだと思います。(自分の場合は TOEIC ベースだと 100 点弱上がりました。)

<留学を薦める理由>

私は自分の経験を持って間違いなく留学することをお勧めしますが、その理由としては、環境を変えることでしか学べないことがあると感じたからです。私の場合は上記の通りですが、他大学のトビタテ生はより独創的で刺激的な経験を通して、様々な学びを得ていました。頭で理解していても、実際に自分の目で見て、肌で感じた経験することで明確に学べることがあり、それはひとそれぞれです。留学は多額の費用と労力がかかり、気軽に実行するものではないかもしれませんが、そのためにトビタテプログラムは存在しています。また、世界が目まぐるしい速度で変化している事実を体感することができ、そういった意味で自然とグローバルな視点を持つことができます。(トビタテの研修に参加すると盛んに「世界が変化するスピード」というワードが出てきます。)



Parker Ranch



IBR 集合写真

